



発行所
大阪市阿倍野区阪南
町一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集責任 延寿正義
発行責任 東谷社一郎

二・三 特集 高浜原子力発電所
原稿の安全性と必要性を追求
四 面 第一回文化祭・修学旅行
研修旅行にばれ話・クラブ
スポーツ
(美術部)

文化祭

34

クラブ発表を主に 例年になく二分化

九月八日に行われた第一回文化祭に続き本日、クラブ発表を主に、第二回文化祭が開催される。会計面においては、昨年同様チケット制が採用された。また第二グラウンドではクラブ発表の部終了後に、後夜祭が予定されている。

今回の文化祭は例年と異なり、二分化が採用された。文化祭二分化とは、文化祭を九月八日のクラス参加の部と、十月四日の文化系クラブ発表の部とに分けるというものである。二分化策に至るまでの過程は次のようである。

文化クラブに所属している者は、日頃の活動の成果を見せようという、夏休みから九月を通して、文化祭の準備に大忙しである。そのうなれば必然的に、クラス参加の方手が回り切らなくなる。これは今年度の文化祭部会が重要視している「文化祭は全員参加である」という方針と大きく反している。そこで考え出されたのが文化祭二分化案である。

当初、予想されていた通り、生徒や文化クラブからの反発があった。特に文化クラブからは「例年の二日間という貴重な時間が削減される」という理由で反対されたが、二回目の開始時間を例年の十時から、九時に改めること、終了時間を一時間半延ばすという事で一応納得してもらった。そして六月十九日に開かれた臨時議会で、文化祭基本方針が可決された。これにより、同時に文化祭二分化案が承認されたのである。この案によれば、先に挙げた文化クラブとクラス参加との問題、そして九月二十七日に開催の、体育大会

に間に合わせるというものが、後夜祭は去年と同様に、集会部会の主催で第二グラウンドで行われる。時間は、備品移動が終了する五時から七時までの二時間である。内容はフリースタイルを囲んでのフォークダンス、先生方のかくし芸、四つのグループ(朱雀・白虎・青龍・玄武)に別れてのグループ対抗かくし芸大会などが予定されている。なお文化部会主催による体育館でのデイスコ大会は中止となった。その理由としては、音響設備

の不足である。後夜祭は去年と同様に、集会部会の主催で第二グラウンドで行われる。時間は、備品移動が終了する五時から七時までの二時間である。内容はフリースタイルを囲んでのフォークダンス、先生方のかくし芸、四つのグループ(朱雀・白虎・青龍・玄武)に別れてのグループ対抗かくし芸大会などが予定されている。なお文化部会主催による体育館でのデイスコ大会は中止となった。その理由としては、音響設備

の不足である。後夜祭は去年と同様に、集会部会の主催で第二グラウンドで行われる。時間は、備品移動が終了する五時から七時までの二時間である。内容はフリースタイルを囲んでのフォークダンス、先生方のかくし芸、四つのグループ(朱雀・白虎・青龍・玄武)に別れてのグループ対抗かくし芸大会などが予定されている。なお文化部会主催による体育館でのデイスコ大会は中止となった。その理由としては、音響設備

の不足である。後夜祭は去年と同様に、集会部会の主催で第二グラウンドで行われる。時間は、備品移動が終了する五時から七時までの二時間である。内容はフリースタイルを囲んでのフォークダンス、先生方のかくし芸、四つのグループ(朱雀・白虎・青龍・玄武)に別れてのグループ対抗かくし芸大会などが予定されている。なお文化部会主催による体育館でのデイスコ大会は中止となった。その理由としては、音響設備

の不足である。後夜祭は去年と同様に、集会部会の主催で第二グラウンドで行われる。時間は、備品移動が終了する五時から七時までの二時間である。内容はフリースタイルを囲んでのフォークダンス、先生方のかくし芸、四つのグループ(朱雀・白虎・青龍・玄武)に別れてのグループ対抗かくし芸大会などが予定されている。なお文化部会主催による体育館でのデイスコ大会は中止となった。その理由としては、音響設備

の不足である。後夜祭は去年と同様に、集会部会の主催で第二グラウンドで行われる。時間は、備品移動が終了する五時から七時までの二時間である。内容はフリースタイルを囲んでのフォークダンス、先生方のかくし芸、四つのグループ(朱雀・白虎・青龍・玄武)に別れてのグループ対抗かくし芸大会などが予定されている。なお文化部会主催による体育館でのデイスコ大会は中止となった。その理由としては、音響設備

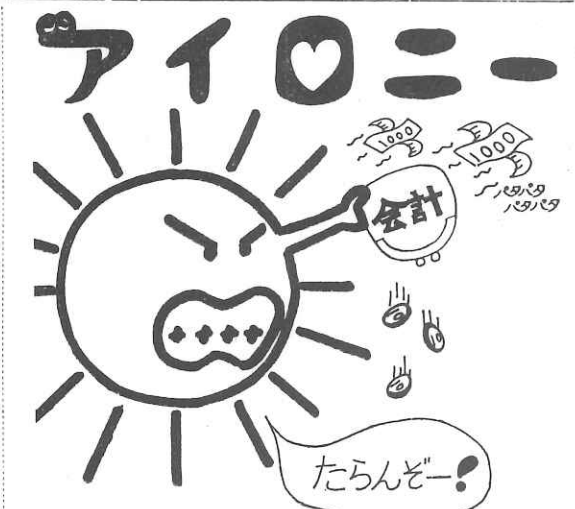
の不足である。後夜祭は去年と同様に、集会部会の主催で第二グラウンドで行われる。時間は、備品移動が終了する五時から七時までの二時間である。内容はフリースタイルを囲んでのフォークダンス、先生方のかくし芸、四つのグループ(朱雀・白虎・青龍・玄武)に別れてのグループ対抗かくし芸大会などが予定されている。なお文化部会主催による体育館でのデイスコ大会は中止となった。その理由としては、音響設備

の不足である。後夜祭は去年と同様に、集会部会の主催で第二グラウンドで行われる。時間は、備品移動が終了する五時から七時までの二時間である。内容はフリースタイルを囲んでのフォークダンス、先生方のかくし芸、四つのグループ(朱雀・白虎・青龍・玄武)に別れてのグループ対抗かくし芸大会などが予定されている。なお文化部会主催による体育館でのデイスコ大会は中止となった。その理由としては、音響設備

の不足である。後夜祭は去年と同様に、集会部会の主催で第二グラウンドで行われる。時間は、備品移動が終了する五時から七時までの二時間である。内容はフリースタイルを囲んでのフォークダンス、先生方のかくし芸、四つのグループ(朱雀・白虎・青龍・玄武)に別れてのグループ対抗かくし芸大会などが予定されている。なお文化部会主催による体育館でのデイスコ大会は中止となった。その理由としては、音響設備

の不足である。後夜祭は去年と同様に、集会部会の主催で第二グラウンドで行われる。時間は、備品移動が終了する五時から七時までの二時間である。内容はフリースタイルを囲んでのフォークダンス、先生方のかくし芸、四つのグループ(朱雀・白虎・青龍・玄武)に別れてのグループ対抗かくし芸大会などが予定されている。なお文化部会主催による体育館でのデイスコ大会は中止となった。その理由としては、音響設備

の不足である。後夜祭は去年と同様に、集会部会の主催で第二グラウンドで行われる。時間は、備品移動が終了する五時から七時までの二時間である。内容はフリースタイルを囲んでのフォークダンス、先生方のかくし芸、四つのグループ(朱雀・白虎・青龍・玄武)に別れてのグループ対抗かくし芸大会などが予定されている。なお文化部会主催による体育館でのデイスコ大会は中止となった。その理由としては、音響設備



第一回文化祭(クラブ発表の部)が、太陽祭と称して、九月八日にどうにか行われた。今年は、顧問の中で話し合われた結果、文化部の支持により文化祭二分化策が決定された。しかし、この二分化策は生徒の間であまり評判が良くなかった。これは、はじめに、どうにか行われた、と述べたが、これが実感である。物事を新たに始めるとなると、いろいろな障壁に出会うものだ。今年の文化祭に例年と異なっていた。その中で致命的なものとして、連絡の不徹底があげられる。

先生「文化部会」文化委員「一般生徒、という伝達経路がうまくつながらなかった。聞けば、南舎三階は生徒の立入り禁止されていた。が、ほとんどの生徒はそれを知らない様子で、教室へ入って遊んでいた。あれは、この連絡の不徹底は、他の事にしてもいい。文化委員会以外でも部会と委員、委員と一般生徒の間が密でなかった。議会にしては、今、討論中の議題は何か?と聞くと、返事の大半は「ああ、」の一言。これではどんな行事もうまくいくはずがない。情報の伝達には「正確に迅速に」が鉄則である。が、肝心の伝達に不完全だ。今年の文化祭(太陽祭)に関して言えば、生徒はさぞおき、二分化策決定の理由を何人の先生が正確に答えられたであろうか。中には「私もはつきり知らないのだが」と、お茶を濁した先生もいた。このうたがたをなくすには、互いに考えを整理し合えるような会議の場を持つべきである。情報過多の社会と異なり、情報過少の阿倍高である。ではねはずは

事故防止を徹底

高浜原子力発電所

○高線量作業などで短時間作業が終了した時には残る時間を無駄に拘束せず、勤務を解除することなどである。

下請労働者には、一カ月に一度、皮膚検査を、三カ月に一度、健康診断を受ける。その時点で、もし異常が見られたりすると、原電側より三カ月から六カ月の入院を強制させられ、自動的に解雇となってしまう。身体が完治しないまま作業に出て、それが原因で何年か後に白血病やガンで亡くなった人も少なくないそうだ。

勤務内容は、主にポンプ・管などの整備で、老年者は制服の洗濯、作業現場の清掃をする。ここでは、十八歳の若者から七十歳近い老人までが働いているが、作業中、放射線漏れなどの事故が起ころうとも、労災保険や雇用保険はかけられていないので補償は全くない。これらの悪条件をなくしていかうと、今回立ち上がった彼らは、もちろん、原子力発電が安全であるとは思っていない。

彼らは今、下請労働者たちの労働条件の改良を目指して頑張っている。

住民インタビュー

高浜町では、原発に対して「関心がある」と答えた住民が多かった。しかし、それは原発そのものに対してではなく、ただ自分たちの町に建てられたというだけで関心を持っているという感じである。

民の意見を聞くとうとするの公開ヒアリング（地元住民の意見もあつたそうである）などもあつたのだ。しかしそれにもかかわらず住民運動があつたのも知らない人が意外に多かった。このことから、これらは大規模な住民運動ではなく、

ところで、現在わが国ではエネルギーの七〇%以上を石油に頼っている。そのうち国内で生産されるのはわずか〇・二%で、ほとん

推進される原発

高浜町役場



高浜町役場企画課内谷さん

町は、原発立地都市として原発を元に通う場所を作ろうということ、原発建設に同意することになったのである。

町役場を訪れるなど、毎日なんらかの形で連絡を取っている。また安全対策については、対策をたてる際に原子力安全委員会（原子力の安全確保体制を強化するため、現在行われている原子力委員会の機能のうちに安全規制を独立して担当するもの）で審査し、住民の意見を聞くため、公開ヒアリングを行う（ダブルチェック）。住民には、原子力セクターから広報誌「アトム」が配布されることにより、原発について正しく理解できるといふことだ。町としては、原発は国のエネルギー確保に協力することになるので、これからも推進していきたいとのことであつた。

内容はこの通りである。

市の周辺には大飯（おおひ）・高浜等の原発があるが、近くで原発が建てられるようになっている。

高浜町は、高浜原発だけでなく、原発が立地している他の市町とも会議などを通じて連絡を取っている。そして、原発の役割などに通じて住民により理解を深めてもらうため、住民参加による講演会などを開いているということだ。町としては、原発は国のエネルギー確保に協力することになるので、これからも推進していきたいとのことであつた。

小浜市は、大飯原発と通
報連絡をとっている。また
福井県を通じて、原発敷地
から半径一〇キロメートル
以内の住民は、事故時に避
難するよう要請されてい
る。もし異状事態が発生す
るとテレメータ・システム
に基づき、役所内総務課へ
連絡される。そして総務課
から市民に直接連絡される
ということだ。

市内には原発の研究施設
というものは特にない。が
その代わりには、原子力発電
小浜市環境安全対策協議会
がある。これは市が事務局

必要性は認知

観光客インタビュ

高浜に来てはいる観光客は原子力発電に對してはどの関心があり、どれほどの知識を持っているのだろうか。それを調べるため、高浜町の蘭部（そのべ）と若宮の海水浴場で観光客にインタビューしてみた。左図はその結果の一部である。

観光客は原子力発電所が身近にないということで、原発に對する関心度が住民に比べて低かった。関心がなると答えた人のうちほとんどが、ニュース等で聞いて知っているという程度であつた。しかし、中には「自分たちの生活にかかわる」という質問に對しては、

「原子力はエネルギー源として必要だと思います。」

「ラフのように、観光客にそれぞれ連想してもらつたものでは、マスコミからの情報に影響され、原発は危険なものであるという印象が強いようだ。」

となると、エネルギー源としての場合と比べて、必要だと答えた人が少なかつた。この最大の原因は、敦賀で起きた放射線漏れ事故であり、これは原発の安全性に疑問を抱かせた重大な事件であつたといえよう。この事故については、マス

(原発建設による国からの交付金で、道路の舗装・漁港の整備・教育文化施設の建設などが行われている。高浜原発が建設されてからは、町役場と高浜原発との間で、電話連絡、またはは原発で働いている人が直接

建設案を却下

小浜市役所

建設案を却下

小浜市役所

市は若狭国定公園のほぼ中央に位置して、神社仏閣の国宝や文財を数多く有し、海のあ

る。市の周辺には大飯（おおひ）・高浜等の原発があるが、近くに原発が建てられることに対するメリットとして、補助金の交付があげられる。これは公共物に用いられるお金で、今までに公民館・市道等が完成した。その反面、高浜原発三、四号機増設の際、一部市民の反対運動に便乗して、全国から反対組織・右翼団体が集結し、市が混乱したというデメリットもある。

現在、小浜市に原発はないが、昭和四十七年と五十年に原発建設の話があった。だが「観光都市として

市内には原発の研究所がない。が、その代わりに、原子力発電小浜市環境安全対策協議会がある。これは市が事務局となつて、市議会や委員会との委員、市の職員と合計二十四人で構成され、年に四回、会議を行うものである。そして、放射線問題や市民の意見を取り上げて広報し、原発が安全なことを知らせるのを主な活動内容としている。それに加え原発の映画の上映や、原発問題についての討議を行つてい

ない」という方針の下で、原発を理解しようとしているようだ。

という意見は少なく、若狭

1. 原発について関心があるか
2. 原発と聞いて連想するものは
3. 原発のしくみを知っていますか
4. 原発は必要だと思うか
5. 原子力センターを知っているか
6. 原発は安心と思うか
7. 原発に賛成ですか
8. これからの原発に望むことは

ある	ない
77.3%	22.7%

心 己に放射能原爆汚	その他
30.1%	36.4%
16.7%	4.2%
12.6%	

知っている	知らない
50.4%	49.6%

思 う	思わない	わからない
77.8%	15.2%	6.9%

知っている	知らない
54.2%	45.8%

思 う	思わない	わからない
22.9%	70.8%	6.2%

賛 成	反 対	いふれない
42.9%	31.4%	25.7%

安全第一	76/76	その他
52.4%	%/%	32.4%

原発を建てず
事故も水ずす

(106人中)

1. 原発について関心があるか
2. 原発と聞いて連想するものは
3. 原発は必要だと思うか
4. あなたの町に原発が建つなら

ある	ない
62.8%	37.3%
心配	その他
17.2%	42.9%
数賀旗能爆	
15.5%	
12.1%	
10.3%	
思う	わからない
81.6%	15%
思わない	3.4%
反対	賛成
68.5%	24.5%
	7.0%

資源危機に對処

— ま と め —

資源危機に対処

— ま と め —

原発の安全性が注目される様になり、高浜近辺の住民からも安全対策について不満の声があがったのだ。その原因の一つは、敦賀原発の事故隠しにあると思われる。マスコミでも大きく報道されたが、放射線漏れを極秘にしていたとのことだ。

敦賀原発、ひいては日本の原発の安全対策が不完全だとされたのだ。けれども、敦賀原発で漏れた放射線量は人体に影響はなく、マスコミが大きく取り上げ過ぎた感がある。高浜原発の場合も、福井原子力センターを中心とする放射線監視レメーターシステムを組み込み、定期的に検査が行われているという点から、安全性においてはまず万全といえる。また高浜を訪れた観光客にも不安を感じている

「危険だと思っているなら、ここへ来ない」という楽観的な返答だった。一方、高浜町の住民はマスコミの報道と、原発に反対する人達の運動が地元で行われた事も手伝ってか、まだまだ不信感はぬぐえないようだった。

先に述べた問題に対し、我々は「将来のエネルギ―として、原子力の必要性を重視したい」という回答を出した。安全対策への不満は、技術革新に伴い解消して欲しい。

また住民は、国や電力会社・マスコミからの知識だけでなく自ら正しい情報を得て、判断する姿勢を持つ必要がある。将来のエネルギ―について、中途半端な知識だけで考えるのは危険だからだ。

原発の安全性が注目される様になり、高浜近辺の住民からも安全対策について不満の声があがったのだ。その原因の一つは、敦賀原発の事故隠しにあると思われる。マスコミでも大きく報道されたが、放射線漏れを極秘にしていたとのことだ。

敦賀原発、ひいては日本の原発の安全対策が不完全だとされたのだ。けれども、敦賀原発で漏れた放射線量は人体に影響はなく、マスコミが大きく取り上げ過ぎた感がある。高浜原発の場合も、福井原子力センターを中心とする放射線監視レメーターシステムを組み込み、定期的に検査が行われているという点から、安全性においてはまず万全といえる。また高浜を訪れた観光客にも不安を感じている

意見述べてきた。
現在日本の発電方式は、石油による火力発電が主である。しかし、我が国は石炭に乏しく、一次エネルギーの多くは輸入に頼っている。特に、石油は、戦後、日本経済の発展を支えてきた重要な資源であり、その確保は国家の存続に関わる重大な課題である。従って、石油依存度を低減し、エネルギーの多様化を図ることが必要である。この観点から、原子力発電の建設推進は、我が国のエネルギー安全保障にとって極めて重要な意味を持つと考えられる。以下、原子力発電の利便性、安全性、環境性、コスト面などについて検討する。

一、原子力発電の利便性
原子力発電は、一度建設されると、燃料費が非常に安く、運転コストが低いという特徴がある。また、天候に左右されず、安定した電力を生産できる。これは、火力発電と比較すると大きなメリットである。特に、大規模な原子力発電所では、一度建設完了後は、長年にわたって安定した電力供給が可能となる。この点から、原子力発電は、我が国のエネルギー需要の増大に対応するための有効な手段であると考えられる。

二、原子力発電の安全性
原子力発電の安全性については、過去数十年間、世界的に多くの議論が行われてきた。特に、福島第一原子力発電所の事故以降、国民の関心が高まっている。しかし、原子力発電の安全性を評価するためには、過去の事故事例を分析し、最新の安全技術を開発・導入することが不可欠である。また、原子力規制委員会の設置など、制度的な整備も進められている。これらの取り組みを通じて、原子力発電の安全性を向上させることが可能であると見込まれる。

三、原子力発電の環境性
原子力発電は、発電時にCO₂などの温室効果ガスを排出しないという特徴がある。これは、気候変動対策の一環として、再生可能エネルギーとともに重要な役割を果たす可能性がある。ただし、原子力発電の廃止炉処理や放射性廃棄物の処分問題は、依然として解決されていない課題である。これらの問題を適切に対処しながら、原子力発電の環境負荷を軽減していく必要がある。

四、原子力発電のコスト面
原子力発電の初期投資額は非常に大きいものの、長期的には火力発電よりもコストが低いという特徴がある。特に、燃料費の面で顕著である。しかし、福島第一原子力発電所の事故後の賠償費用や、廃止炉処理費用などが発生している現状では、コスト面での優位性は相対的に低下している。今後の政策支援や技術革新によって、コスト競争力を高めることが求められる。

結論として、原子力発電は、我が国のエネルギー安全保障と環境対策の両方において重要な役割を果たす可能性がある。しかし、その実現のためには、安全性の向上とコスト削減の両方を同時に追求することが不可欠である。政府、事業者、市民の三者が協力して取り組むことで、持続可能なエネルギー社会の実現を目指す必要がある。

